

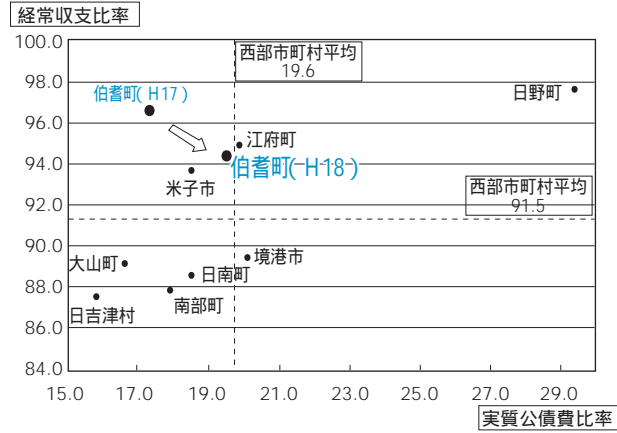
右の表は、西部市町村の財政状況をグラフ化したものです。

縦は、経常収支比率、横は実質公債費比率という財政状況を表す指標ですが、簡単に言えば、縦が建設事業等をする余裕があるかどうか？横が借金をどれだけしているか？を表しています。

左下であるほど、財政状況が良く、右上であるほど、財政状況が悪いことになります。点線が、西部市町村の平均値です。

伯耆町は西部では、3番目に悪い財政状況であると言えます。しかしながら、前年度と比較すると借金返済の増大により実質公債費比率が伸びているものの、人件費、物件費等の経常的な経費削減により、経常収支比率が2.2%の減となっています。

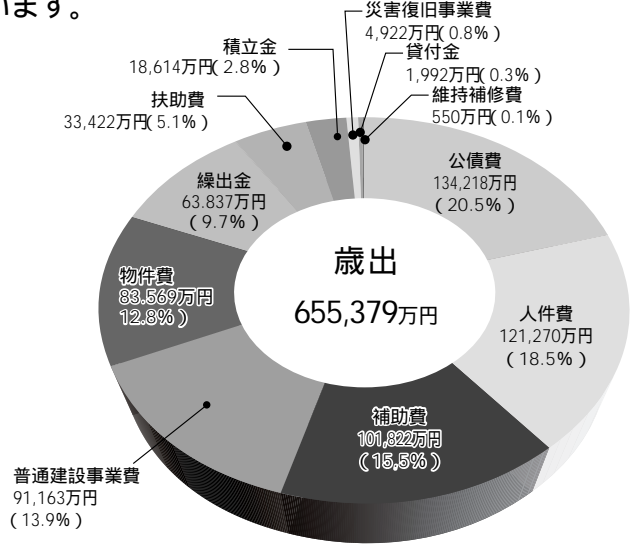
### 西部市町村決算の状況



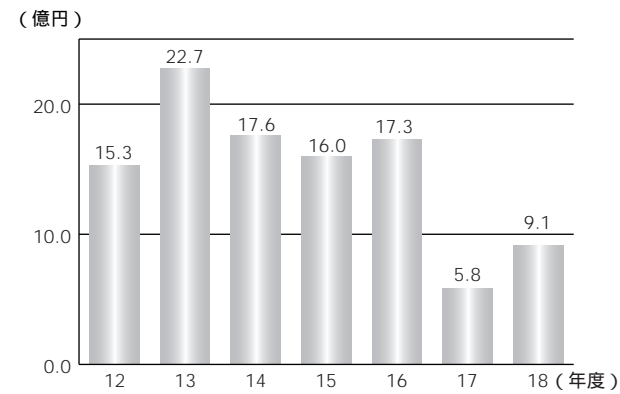
左の表は、歳出(支出)を表しています。平成18年度伯耆町一般会計決算額の歳出総額は、65億5379万円でした。これは、前年度決算と比較して、6734万円(1.0%)の増となりました。

特徴は、平成19年度まで公債費(借入金)返済が増加しているため、公債費が全体の20%を占めていること、また、総人件費の抑制を図っているものの人件費が18.5%(前年度対比1.0%)を占めていることです。

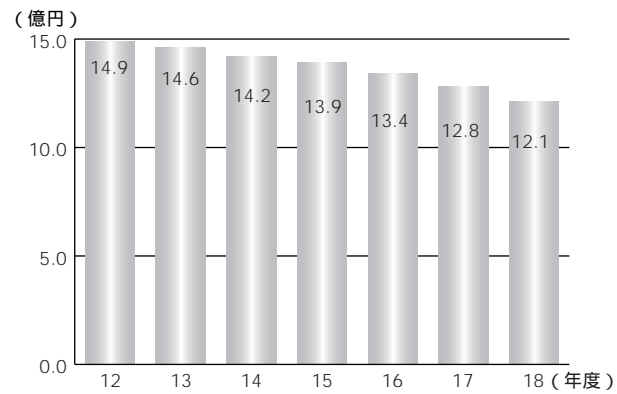
なお、後年度の財政需要に備えるため、基金積立を1億8614万円行っています。



### 建設事業費の推移



### 人件費の推移

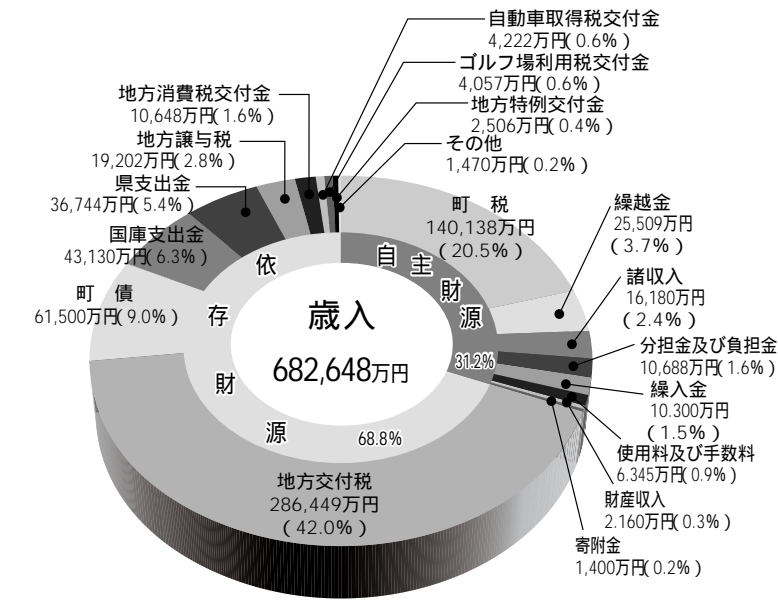


### 今後の伯耆町の財政状況はどうか？

「将来的に持続可能な財政運営」を目標として、総人件費の抑制をはじめとして、経常的な経費の削減、借金の適正化に努め、結果として平成18年度決算では、平成17年度に比べ健全化に向かっています。しかしながら、今後の伯耆町の財政状況は、特別交付税の合併したことによる措置分がなくなること、また、普通交付税が減少傾向にあるなど今後の国の財政状況が不透明であり、依然として厳しい状況になると言えます。そのような状況下、国の動向を捉えつつ、更なる行政改革の実施、また、住民の皆さんからのご協力により更に健全で安定した財政構造を再構築する必要があります。

# 平成18年度 決算報告 伯耆町の財政状況

平成18年度決算が9月議会で承認されました。伯耆町の財政は、公債費(借金)返済の増により財政指標が悪化していますが、総人件費の抑制、経費節減により健全化に取り組んでいます。

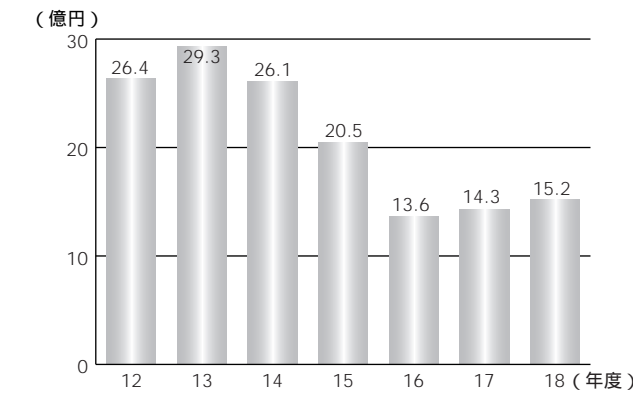


左の表は歳入(収入)を表しています。平成18年度伯耆町一般会計決算額の歳入総額は、68億2648万円でした。これは、前年度と比較して、8494万円(1.3%)の増となりました。

特徴は、地方交付税、県支出金、国庫支出金が約60%を占め、自主財源である町税は20%部分しかなく、収入の多くを国や県に頼っている状況にあります。

前年度と比較しての歳入総額増の要因は、建設事業の増による借金の増によるものです。

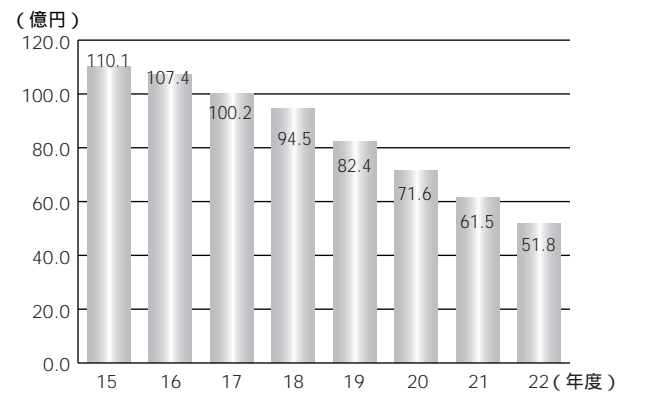
### 基金(貯金)の推移



### 町民一人あたりの貯金

12万円(前年度比+8千円)  
大規模事業、合併調整などへの対応もあり、減少していましたが、平成17・18年度に積立をおこない、今後の財政需用に対応できるよう準備しています。

### 地方債(借金)残高の推移



### 町民一人あたりの借金

77万円(前年度比4万円)  
減少傾向にあります。今後の借入れについては、計画的におこない、更に縮減を図る計画です。